

令和元年 8 月 23 日
商工部産業イノベーション課

マカオ・^{しんせん}深圳訪問報告について

(訪問概要)

期 間：8 月 11 日（日）から 15 日（木）まで

参加者：7 人（市：市長、産業イノベーション課長ほか 2 人、大学・高専：教員 1 人、学生 2 人）

目 的：AI を研究する市内大学・高専の教員や学生とともに国際学会に参加し、研究者や関係者と交流し、学会等の誘致に向けた意見交換を行い、今後の AI 関連の施策に役立てるもの

■8 月 12 日（月） 国際人工知能学会（ベネチアン・マカオ・ホテル・リゾート）マカオ

人工知能の様々な分野の研究者が集まる、人工知能学会分野でトップの学術会議。

今年はマカオで開催され、来場者 3,000 人、論文投稿数 4,750 件。来年は日本で開催される。



1. 学会



2. レセプション



3. レセプションで日本から訪れた研究者らと交流



4. (向かって右) 北野宏明氏
(ソニーコンピュータサイエンス研究所所長)
(向かって左) 清水亮氏
(ギリア㈱代表取締役社長)

【市長コメント】

人工知能の活用が世界的に急激に広まっていることを感じた。

日本から訪れた多くの研究者や企業関係者と交流ができたので、長岡のイノベーションの今後の展開につなげていきたい。

■8月13日（火） 深圳未来創新服務中心(MIRAI Innovation Center Shenzhen) 深圳

深圳未来創新服務中心は、深圳湾創業広場の一角に開設された中国進出を目指す日本企業のためのイノベーションセンター。

深圳市南山区の産業開発エリア・深圳湾創業広場は、中国政府の主導で2015年から運営が始まり、中国IT企業大手のテンセントもオフィスを構える中国随一のソフトウェアパーク。スタートアップのためのオフィス、ベンチャーキャピタル、試作ができるラボ、金融機関、法律事務所などが集積している。

中国政府は、成長が見込めるベンチャー企業に無料でオフィスを提供したり補助金を給付するなど、積極的に投資している。



1. 深圳湾創業広場の模型



2. 深圳湾創業広場



3. 深圳未来創新服務中心の姜香花氏（副総経理）から説明を受ける

【市長コメント】

中国政府の政策により、徹底的な規制緩和と多額の資金で理想的な起業創業のエコシステムが実現され、深圳が新しい世界の中心都市に発展したことがよくわかった。

この仕組みをそのまま長岡に導入することは不可能だが、学生や若者を中心としたスタートアップを育てるマインドとノウハウを学び、深圳との関係を築くことが長岡での起業創業の動きを加速させることにつながると確信した。

■8月13日（火） とうかん 東莞日精電子有限公司（日本精機株の現地法人） 深圳

東莞日精電子有限公司は2003年設立。中国の安価な人件費を求めて進出し、現在、従業員は約500人、うち日本から4人が派遣されている。

近年の中国での人件費の上昇を受け、エアコンのタッチパネル付きリモコンやコピー機の操作タッチパネルなど、付加価値の高いものを製造している。製造にあたっては、現地調達の一部材と日本からの部材を組み合わせている。

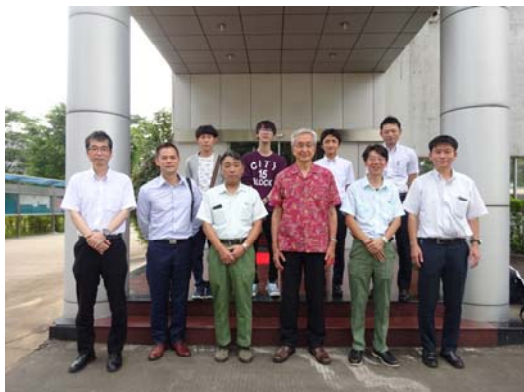
なお、東莞市は深圳市の北に隣接し、深圳市中心部から車で1時間の距離である。



1. 工場内の見学



2. 事業内容の説明、意見交換



3. 訪問メンバーと白井利也氏（総経理：向かって市長の左隣）ら

【市長コメント】

日本流の生産管理を徹底的に導入して、極めて高度な品質管理を行っていることに驚いた。日本のものづくりのすごさを改めて知るとともに、今後、長岡の企業が世界に進出する際、当社のこれまでの実績が活かしていただくよう協力をお願いした。

■8月14日（水） 深圳市光明区科技创新局（イノベーション支援部局） 深圳

深圳市光明区は市の北西部に位置し、2007年に分離・新設された区である。人口は62万人で、サイエンスシティ（光明科学城）を標榜している。液晶や医療分野の企業が集積しているほか、中山大学の深圳キャンパスの誘致に成功した。

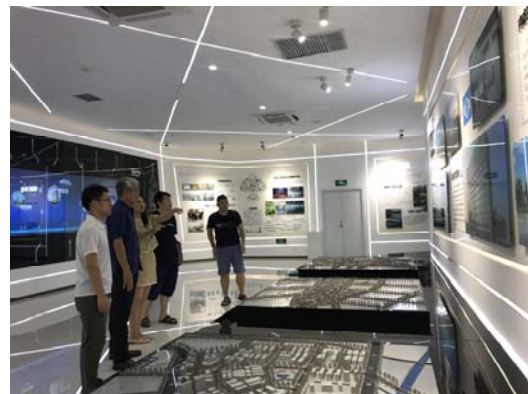
香港、深圳、広州、マカオなどの珠江デルタ地帯は、ニューヨーク、サンフランシスコ（シリコンバレー）、東京に次ぐ第4のベイエリアの形成を目指している。その中で光明区は、香港－深圳－広州を結ぶ交通の要衝にあり、高速鉄道の駅が置かれている。



1. 光明区科技创新局の趙副局长ほか3名の職員と意見交換（担当職員2名は日本に留学経験があり日本語が堪能で、日本の状況を踏まえた意見交換ができた。）



2. 珠江デルタ地帯の開発構想



3. 光明区の都市開発構想の模型

【市長コメント】

深圳市光明区は開発中ということで、スタートアップの育成もこれからで、長岡と連携するにはちょうど良いと感じた。

今後、産業界や若者の人材交流を進める考えで一致した。

■8月14日（水） M5Stack（エム・ファイブ・スタック） 深圳

M5Stack は、液晶モニター付きのマイコンを搭載した IoT 製品向けの試作開発キットを製造・販売している企業。カメラやセンサーなどとの組み合わせの自由度が高く、電子工作をする「Maker」の人たちから高い支持を得ている。

社内に試作スペースと 1 日に 800 台製造できる量産スペースがあり、初期ロットは社内で製造し、軌道に乗ると外注している。

アイデアをすぐに製品化することができ、今回訪問時に説明を受けた試作品は、2 日前にひらめいたアイデアのものであった。



1. M5stack の開発者で社長のジミー・ライ氏から製品の説明を受けるとともに、教育などでの利用について意見交換。ジミー氏は国営電力会社からスピンアウト（転職）して起業。



2. 訪問メンバーと製品の説明を受ける



3. 試作スペース

【市長コメント】

M5Stack は将来、ファウエイのように成長するのではないかとこのスタートアップで、大変興味深い訪問となった。

従業員数 50 人以下で、着想から 1~2 週間で製品化するスピードは「Maker」のスタートアップのモデルとなっている。

ものづくりの起業・創業を目指す長岡の若者にぜひ参考にしてほしい企業であり、今回の訪問で得た情報を伝えていきたい。